

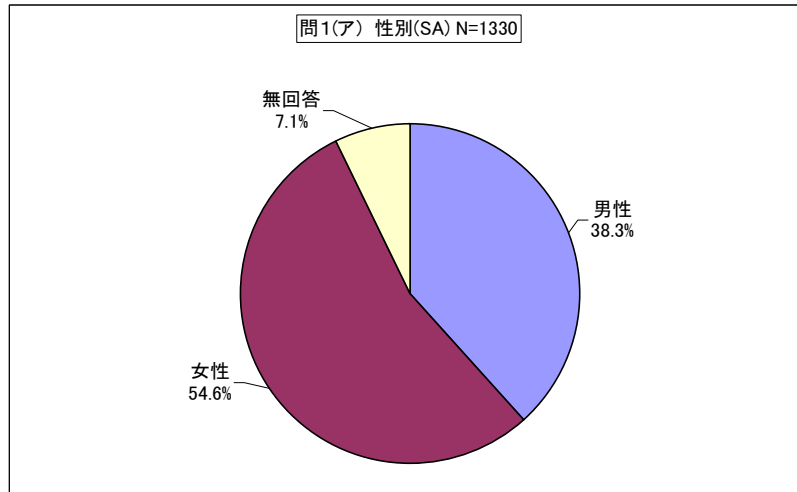
Ⅱ. 調査結果

問1 回答者の属性

(ア) 性別

性別では、「男性」509人、「女性」726人で、「女性」が全体の5割強を占めています。男女構成は、概ね市の現状を反映しています。

(平成16年5月1日現在の推計人口では、男性48.4%、女性51.6% (岐阜県人口動態統計調査))

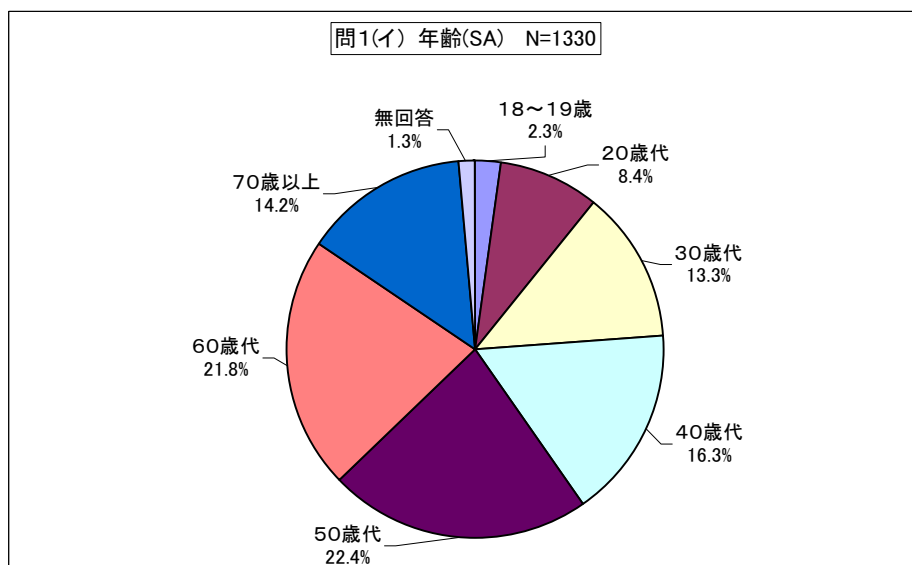


(イ) 年齢

年齢構成では、“60歳以上（高齢層）”が3分の1を占め、全体の6割は“50歳以上”です。“40～50歳代（壮年層）”が4割を占める一方、“18～39歳（青年層）”は2割強となっています。青年層の割合はわずかながら低いものの、全般的には本市の年齢構成を反映しています。

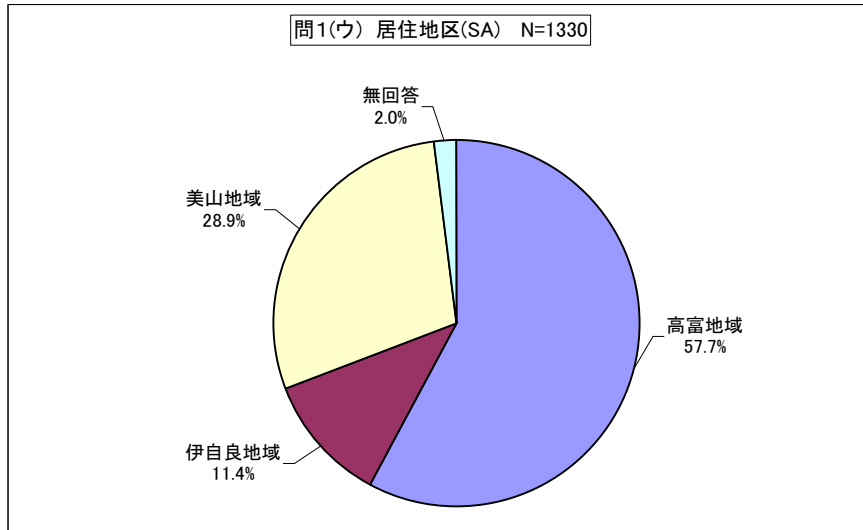
なお、居住地区別では、「美山地域」の“60歳以上”の割合は4割で他の地域に比べてわずかながら高くなっていますが、特に大きな差はみられません。性別による差はみられません。

(平成16年4月1日現在、“18～39歳”30.4%、“40～59歳”35.5%、“60歳以上”34.1% (岐阜県人口動態統計調査))



(ウ) 居住地域

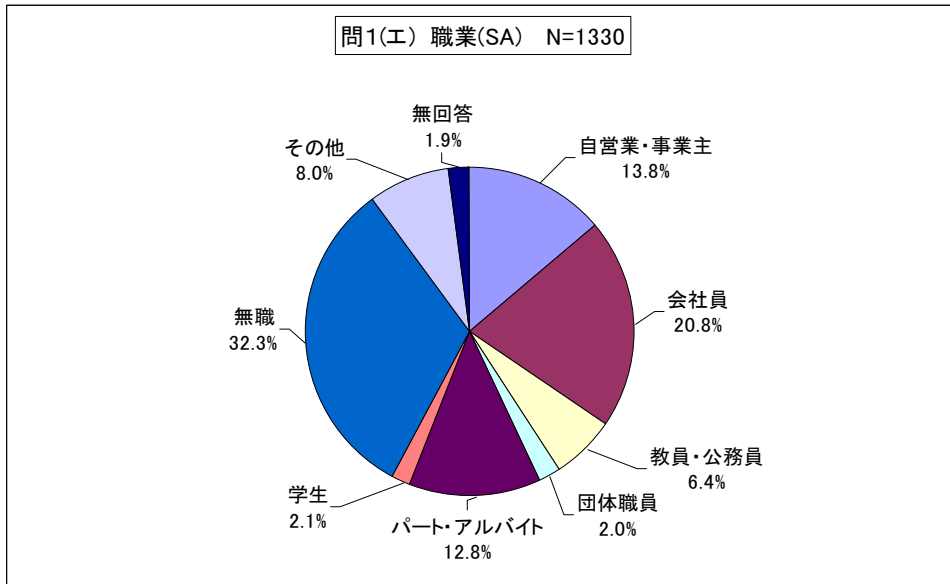
本市の人口構成を反映し、「高富地域」が全体の6割を占め、次いで「美山地域」3割、「伊自良地域」1割となっています。



(エ) 職業

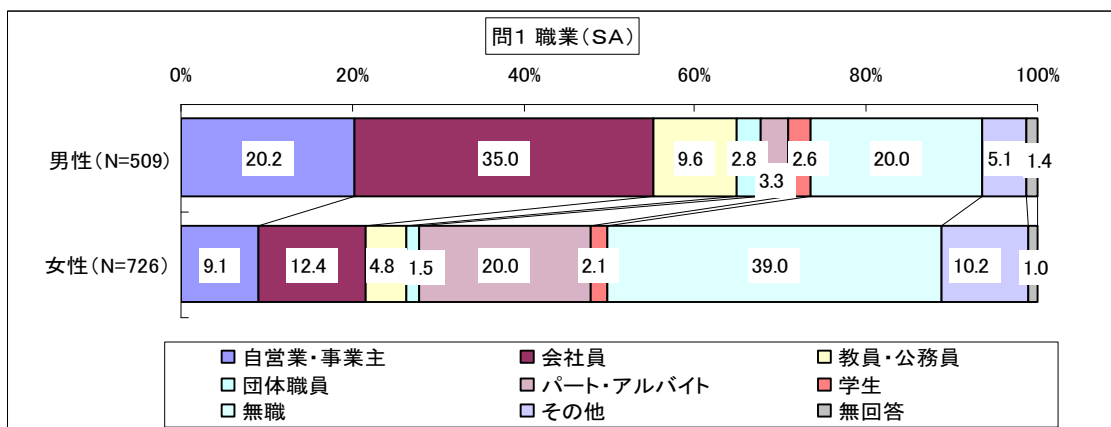
職業では、“60歳以上”の割合が高いことなどを反映して、「無職」が全体の3分の1を占め、最も多くなっています。

有職者としては、「会社員」が2割と最も多く、次いで「自営業・事業主」、「パート・アルバイト」、「教員・公務員」の順となっています。



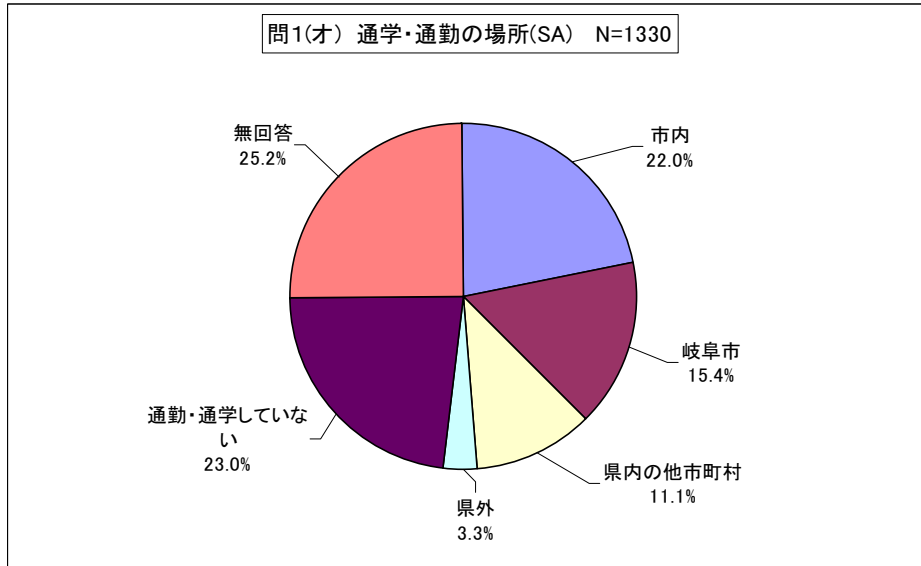
<性別>

「男性」では全般的に有職者が多いのに対して、「女性」では「無職」が4割と最も高くなっています。具体的な職業では、「男性」では「会社員」や「自営業・事業主」が上位を占めているのに対し、一方、「女性」では、「パート・アルバイト」が2割を占めています。



(オ) 通勤・通学

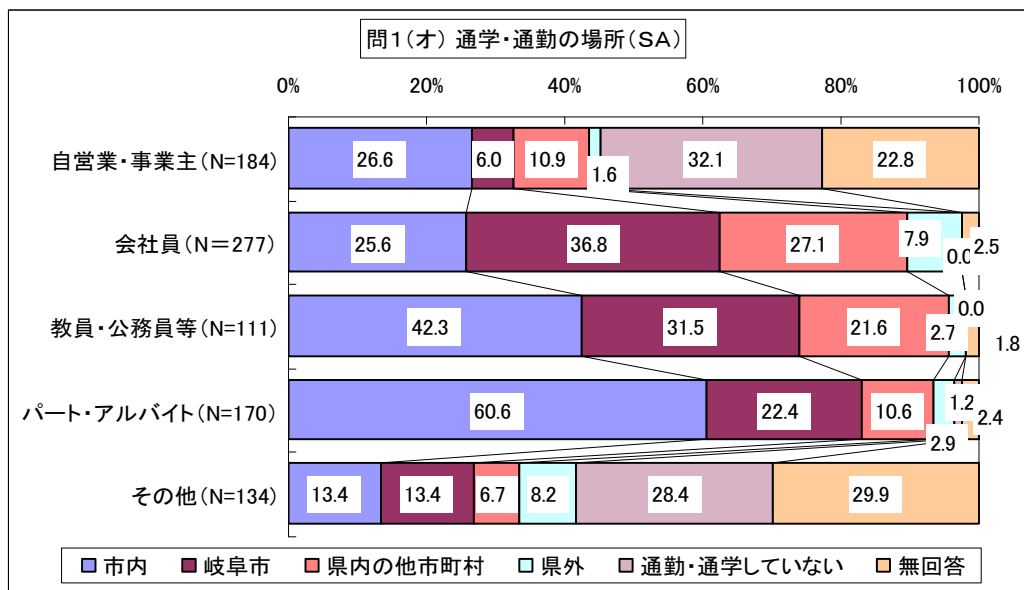
通勤・通学の場所では、「市内」2割、「市外」3割に分かれます。「市外」の半数は「岐阜市」で、「県外」はほとんどみられません。なお、「無職」の割合が高いことなどもあり、「通勤・通学していない」や「無回答」が目立ちます。



<職業別>

有職者の中で最も多い「会社員」の通勤先をみると、「岐阜市」などの“市外”が3分の2を占めています。また、「教育・公務員等(団体職員含む)」でも半数以上は“市外”です。それに対して、「パート・アルバイト」の6割は「市内」となっています。

なお、「学生」の通学先は、市内に大学等がないことからすべて“市外”となっており、「県外」も目立ちます。

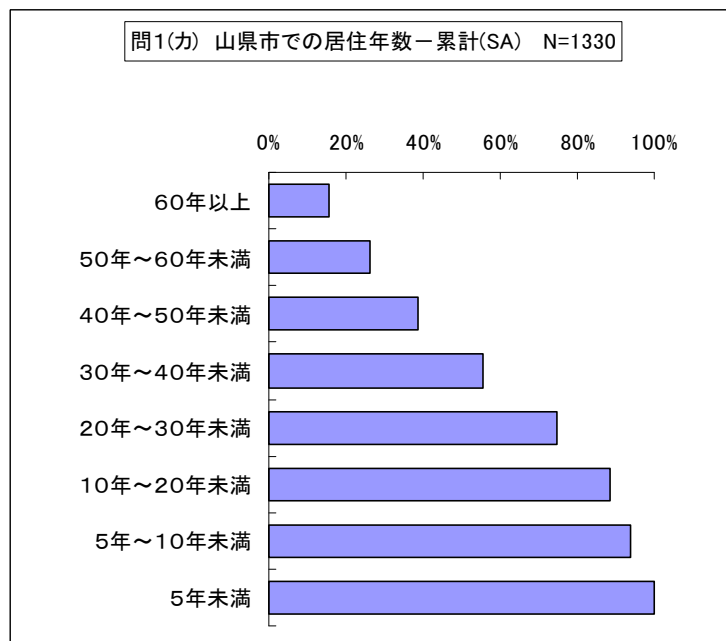
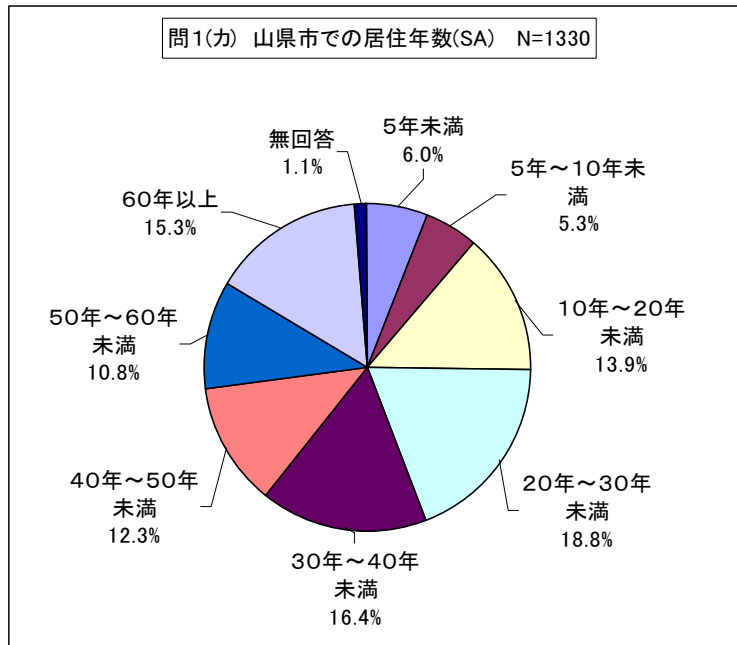


※「教育・公務員等」には「団体職員」(26)を、「その他」には「学生」(28)を含む。また、「学生」の通学先は「岐阜市」(8)「県内の他市町村」(9)「県外」(11)である。

(カ) 居住年数

居住年数をみると、“10年未満”は1割以下です。“10年以上”では、「10～20年未満」から「60年以上」まで回答は分かれています。

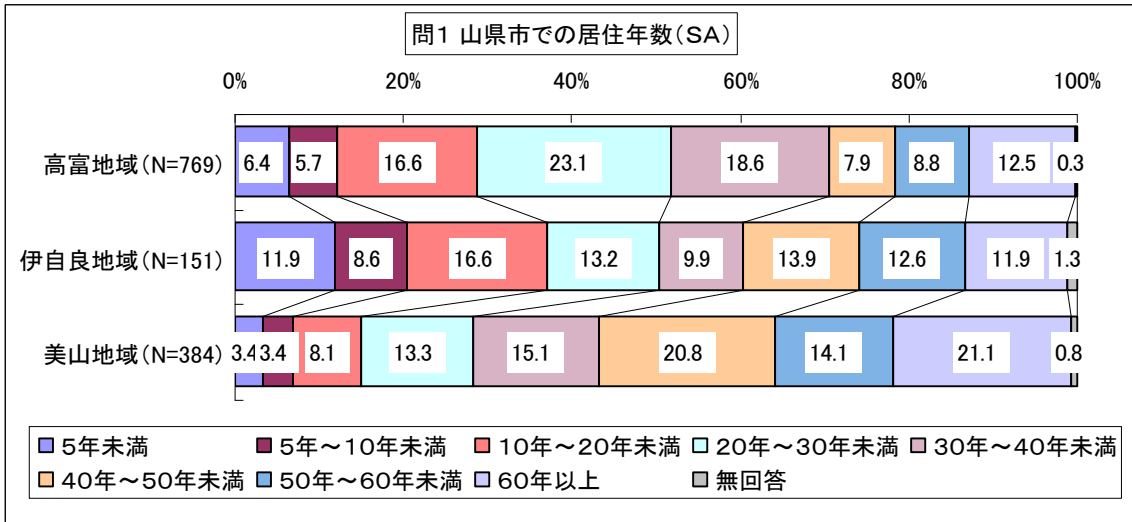
累計をみると、「30～40年未満」までで全体の約6割を占め、“20年以上”が全体の4分の3に達しています。



<地域別>

「美山地域」では、居住年数“30年以上”が7割を占めているのに対し、“20年未満”は1割強にとどまっています。一方、「高富地域」や「伊自良地域」では、“30年以上”はわずかながら5割を下回っているのに対し、“20年未満”は2割を超えています。年齢構成には大きな差がみられないことから、地域別の転出入傾向に差があることが推測されます。

なお、「伊自良地域」では、“20年以上”が約4割を占めるほか、“10年未満”が2割みられるなど、比較的新しい住民が増加していることがうかがえます。

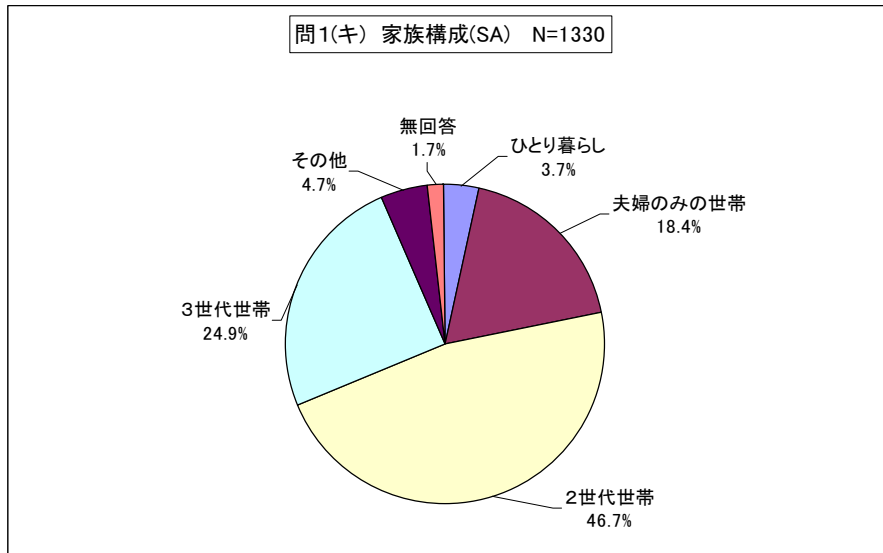


(キ) 家族構成

家族構成では、「2世代世帯（親と子）」が約5割を占め、次いで「3世代世帯（親と子と孫）」で、全体の7割が多世代同居世帯となっています。また、「ひとり暮らし」はほとんどみられません。

本市の世帯規模は県平均を上回っていますが、その特徴を裏付ける結果となっています。

(平成16年5月1日現在、山県市3.27人、岐阜県2.99人(岐阜県人口動態統計調査))



<年齢構成別>

年齢構成別にみると、「40歳代」までは「2世代世帯」や「3世代」が中心となっていますが、「50歳以上」では「夫婦のみの世帯」や「ひとり暮らし」の割合が高まります。

しかし、「70歳以上」では、再び「3世代同居」の割合が高まるのが特徴的です。

